

# 停滞感強まる2023年の世界経済

過去30年近く続いてきたグローバル化が正念場を迎えている。もはや経済の一体化も持続は確信できなくなっている。日本と日本企業に求められることは。

丸紅株式会社 執行役員  
丸紅経済研究所長 **今村 卓**

## 口中首脳の意外な判断

天気予報は予測アルゴリズムの改良や解析の実行基盤のコンピューターの性能向上から、その精度が着実に上がってきている。それに比べて改善が乏しいのがマクロ経済予測である。2022年の世界の実質GDP成長率をみても、IMFが21年10月に発表した予測は4.9%、1年後の22年10月発表の予測は3.2%、1.7%ポイントも下方修正された。5%前後は景気拡大、3%近くは停滞感が強く差は大きい。

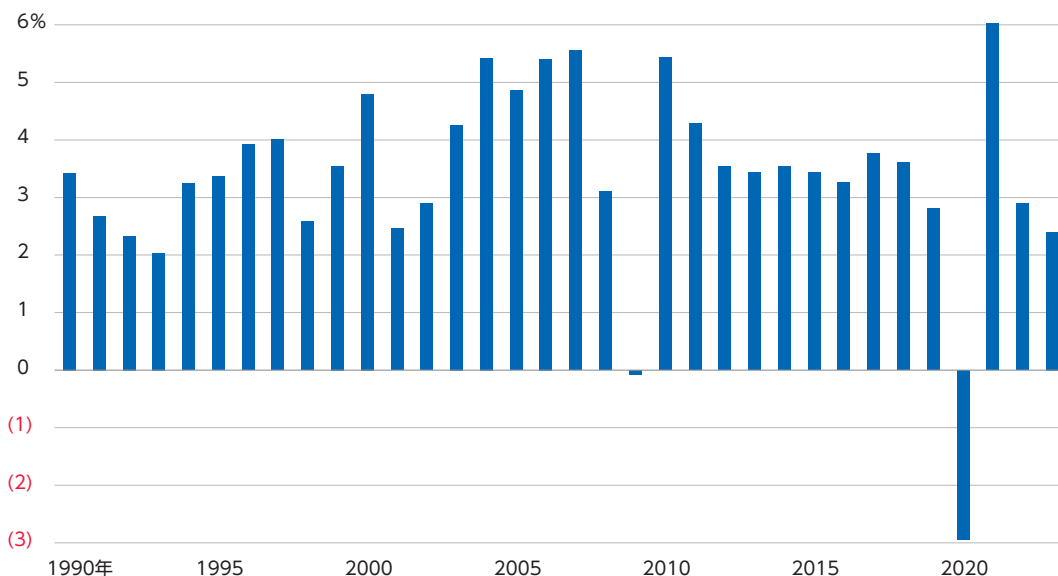
経済予測が当たらない大きな原因は、分析対象に移ろいやすい人の心理とそれに基づく行動

が含まれることにある。天気予報が扱う自然現象と違い、人の心理は矛盾が生じやすく、一貫性を欠く変化が連続することも多い。

2022年の世界経済で言えば、多くの予測は影響力が大きい2人の首脳の心理と判断を読み間違えた。ロシアのプーチン大統領と中国の習近平国家主席である。

プーチン氏は、経済面の利益がほとんどないウクライナ侵攻に踏み切った。国家安全保障上の脅威や歴史に名を残したいなど、同氏には経済よりも大事なものがあつたと考えるしかない。その決断、侵攻が世界経済に及ぼした悪影響は甚大だった。ウクライナ、ロシア両国の経済の

世界の実質GDP成長率の推移



(注) 2022年は実績見込み、2023年は予測。(出所) IMF、丸紅経済研究所